

1 児童の現状分析

明るく分け隔てなく人と接することができる。大事なことや順序に気を付けて聞いたり、相手や目的を意識して話したりする力には課題がある。文章を書く際に、主語や段落を意識して書くことが不十分な児童が少なくない。

2 各教科等における授業改善の視点

授業改善の視点	
国語	○文章を書く際、主語と述語の関係を意識させたり、「はじめ・中・終わり」の構成に沿って書かせたりするよう指導する。友達の見解との共通点や相違点に気付けるよう、タブレット型パソコンを用いて、一度に多様な考えに触れられるような授業を行う。
社会	○各単元における学習内容の構成を工夫することで、児童が既習事項を踏まえながら、学んだことや考えたことをまとめたり、整理したりできるようにする。児童に「問い」をもたせられるよう発問や資料を精選する。
算数	○自分の考えを図や式で表し、算数用語を用いて説明できるよう指導する。習熟度の実態に応じて、考えを交流させる場面を設定し、対話を通して考えを深められるような授業を行う。
理科	○単元開始時の観察・実験などから、問題を見い出せるような指導をする。 ○「問題把握」→「予想」→「計画」→「観察・実験」→「結果」→「考察」→「結論」という問題解決の流れを児童に意識させ、学習に取り組ませるよう指導する。
音楽	○リコーダーの基礎的な技能(持ち方・タンギング・音色)について、できているかどうかを振り返り、改善することができるようにするとともに、友達と演奏を聴き合うことで、そのよさを見付け、より技能的に習熟できるようにする。
図画工作	○活動の中で新たな気付きを得て、達成感を味わうことができるようにするため、試行錯誤する時間を十分に確保し、作り方の具体例や工夫できるポイント、友達との交流等を取り入れて指導する。
体育	○必要に応じてタブレット型パソコンや「NHK for school」の映像資料などを活用し、技のポイントを確認したり、後で動きを振り返ったりすることで、技能を高め合えるように指導する。
外国語	○毎時間デジタル教科書を活用することで、チャンツに合わせて英語表現を学習する。既習事項を基に、友達との対話活動を通して音声に慣れ親しませる。タブレット型パソコンを調べ学習や英語ビンゴゲーム等行う際に活用させ、個別最適化された学びを実現する。
道徳	○発問を吟味したり、友達との役割演技や考えを共有する場を設けたりすることで主題に迫る授業作りをする。教材から感じたことに基づき、自己の生き方について考えを深めることができるよう、展開後段における発問や学習形態を精選して設定する。
総合	○児童が自分で課題を設定して、図鑑やタブレット型パソコンを効果的に使用し、手書きのパンフレットや「Googleスライド」などで調べたことをまとめられるようにする。「何のために」「誰に対して」を明確にした上で表現活動に取り組ませる。